寫眞週報

内閣情報部編輯
六月八日・第十七號・十セン

赤十字のもと
徐州放送

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

赤十字のもと輝く白衣

博愛の表徴、赤十字旗かわが國に、ひるがへつてからもう六十年あまり、その間いくたびか戰爭の試練を經ながら、日本赤十字の尊い使命を、か弱い肩に擔つた白衣の天使たちは、世界赤十字事業の上に、その氣高くも雄々しい姿をくつきりと浮き上らせてきた。

この度の事變にも、大陸に派遣された赤十字救護看護婦は、既に三千余名を數へ、砲火炸裂する戰場で、或ひは波浪さかまく大海原の病院船勤務に、敵味方わけへだてなく、慈愛博愛の一念に燃えて看護のまことを捧げてゐる。

たゞ赤十字愛に殉じよう、といふその凛々しい覺悟は、忠勇無比の皇軍精神と何の劣るところがあらうか。

"愛の大和魂"を純白の衣に包んで戰時救護にいそしむ赤十字看護婦の一時一刻の生活にこそ、輝く日本婦道のすべてがある。

健康は船旅から

瀬戸内海へ
南紀州へ

大阪商船

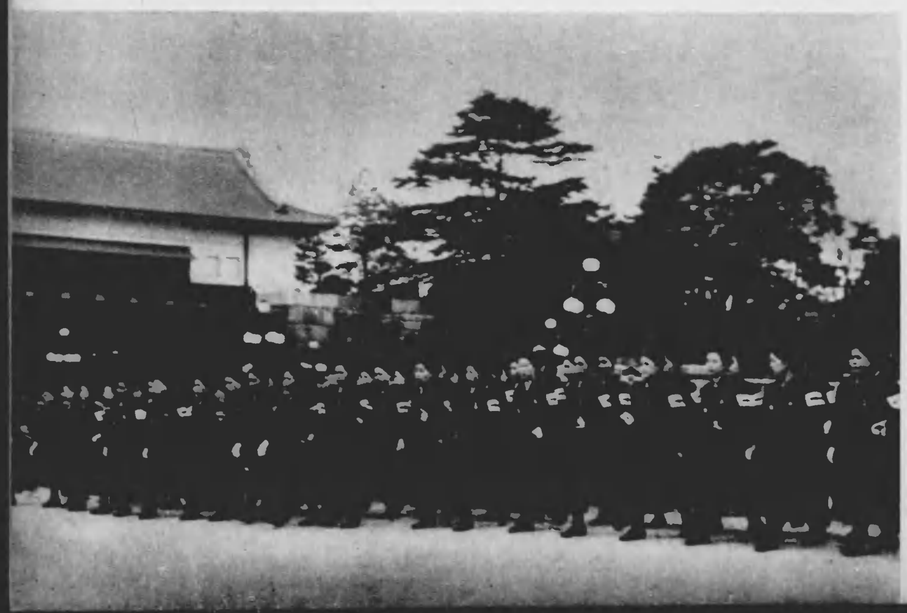
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

出征から歸還まで

⇨ つひに召集令は下つた。屋上に祀る皇太神宮、明治神宮、そして、護國の女神となつた先覺英靈二十七柱も合祀される靖國神社の社前に祈願をこめ、神酒を戴けば、えらばれた大和撫子の感激が胸にたぎる。

⇩ 味方の兵の上のみか言も通はぬあだ迄もいと懇ろに看護する心の色は赤十字
—婦人從軍團第五隊—

⇩ あらゆる危險、困苦とたたかひ野戰病院、病院船勤務に一身を捧げて幾月、再び宮城を拜せるとは何人が豫期してゐたらか。
萬感交々、歸還報告を終へて、硝煙に染まつた赤十字腕章もたふとく、堂々宮城前を行進する救護看護歸班。



⇨ ——彼女も船よひにすつ込み上げてくる嘔吐を手巾で押へながら、甲斐甲斐しく働いてくれる。夜半にふと目覺めベットに腰かけて寄白い顔を電燈に照らされてゐる白衣の姿を見ると、一種崇高の念にうたれて覺えず涙がこぼれた……。
（岡本軍醫少將病院船手記より）

⇩ 海ゆかば綠一線描きたる病院船のいさを立てなむ！—同方「西月敏赤崎見幸さん作
うら若き女の身に浴びる、出征萬歳！の聲も、赤十字看護歸なればこそ。
この日の歡喜、この日の光榮を、征衣の胸にはつて、博愛の戰士達はいまぞ住みなれた病院を出でたつ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

傷兵の母

⇨（父母はいかにお在す……）
手紙を書くいとまなく飯匂――
看護の合間に牧容患者の右手となり、ふるさとへのたよりを書けば、いつか自らも思郷の心、こまごまとそのまゝ文字に綴つてゆく。

⇨ すやすやと静かなねいき聞きつつもなほ覗きみる病める勇士を――
第一六八教護班藤野琴江さん作
傷の痛みに悩んでゐた戦傷兵達もやうやく安らかな眠りを攝れるやうになつた。時のゝ〜と明けた朝、乙女心は、交替のかへりにそつと花の水をかへてまゐる。

⇨ 傷癒える悦びを詩歌にのせて、アツコディオンを弾く白衣の勇士
楽譜をもつて、ぢつと流れでるメロディーに耳を傾けてゐると、傷兵の歌喜が、そのまま胸にかよつてくる。

⇨ 「見違へる程よくなつたわ。」と、けふも元氣づけながら、二人で、まどころを繃帯に巻けば、戦傷兵も「うん、もうすぐ歩けるやうになるさ。」と、うれしくも、痛みをこらへてくれる。

⇨ 「松葉杖の具合はどうだい？」
「ほう、貴様も、車で診療にゆけるやうになつたか？」
勇士の交す會話の明るさ。
胸にこみあげるいひしれぬ感激を刹一杯の笑ひにまぎらして、窓にあふれる陽ざしの中に車を止める。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

養心寮

⇦ この夜更け病舎をみとる運回のみとりめの靴はかそけく響く

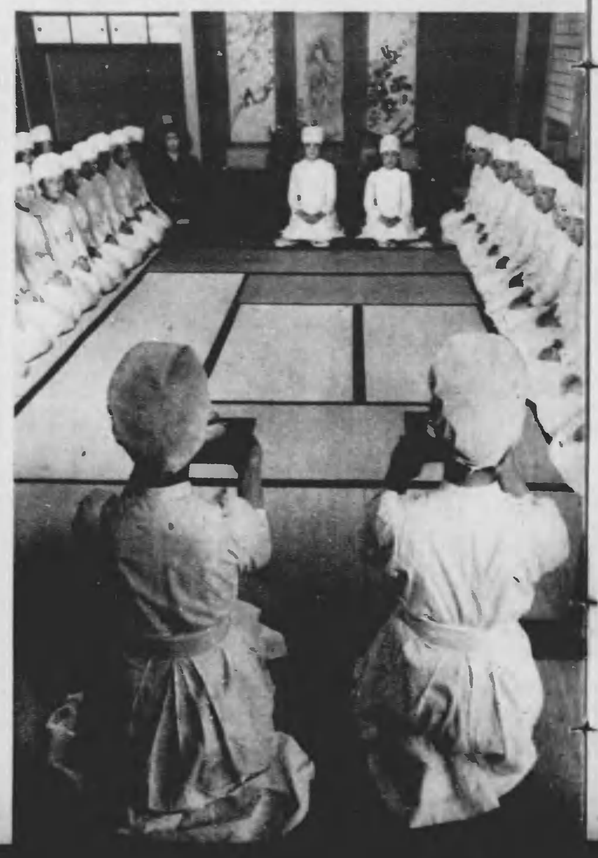
七時の交替時間、ひき上げる學友と禮儀正しい默禮かはし、つちい微夜實習へと長い廊下をいそぐ氣にかかるは、傷の痛みに惱む戰傷勇士、熱の下らぬ一般患者——

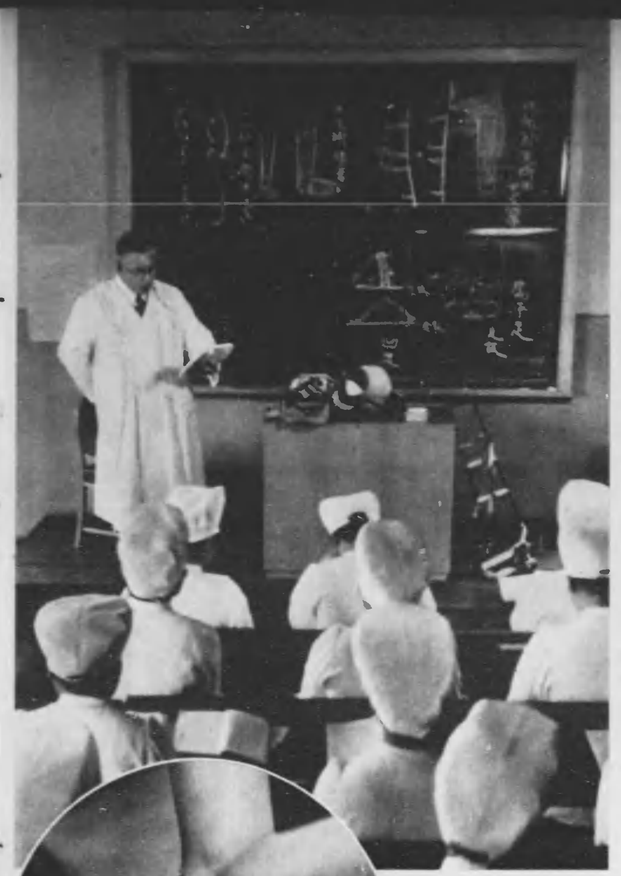
⇧ お裁縫も女學校だけでは十分でないといふので、養成部に入るとどんな着物でも縫へるやう、講師が一人一人手をとつて教へる。

夕食後、間もなくくる一年一週間の歸省休みを樂しみに、乙女心はせつせと晴着を縫ふ。

⇩ その端麗な姿勢にあふれる弓道の精神。

妹をはなれた矢は、統一された精神となつて、發正と的を射ぬく。彼女達の禮儀正しい身體のこなし、居着きは、たゆざる弓道への精進から生れてゐる。





⇦ 手は心、乙女たち、氣高く生きて、何んといふ、きよらかな美しさであらう。光であらはれてゐるやうだ、この手。

⇦ 明るい教室で養成部一年生の繃帯學講義。

かく育つ

副監督　山本やを女史（下右）

日本赤十字社病院長
軍醫中將
醫學博士　藤波　正氏（上）

養成部長　廣岡道明氏（下左）

⇦ 入學すると、世界一の設備をほこる實習室で、さつそく人形や模型を對手に基本演習が始まる。

——數布とり換への演習。

先生は、養成部卒業後津田英學塾に給費生として學び看護學研究のため英國セント・トーマス病院に派遣された井上夏枝看護婦長。

⇦ 日本赤十字看護婦は又立派な日本婦人でなければならない。

病む人へのしとやかなかしづき、大和撫子としてはづかしからぬ動作、心構へを、お作法の時間で養ふ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

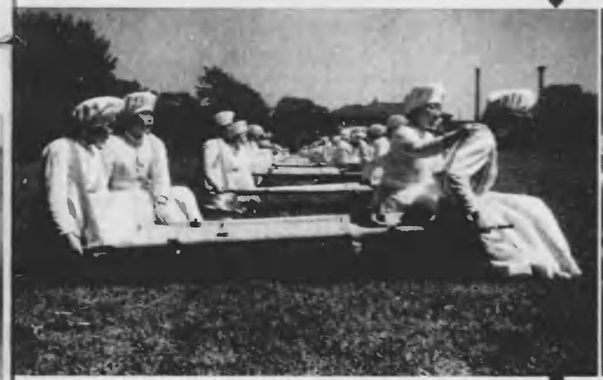
卒業後十二ケ年の應召義務年限もとうに過ぎて、今は看護婦會などを開き、赤十字の精神を巷に生かしてゐる看護婦同方會員達も、銃後の御奉公を忘れまじと、奉仕看護に慰問に病院へやつてくる。

入れ歯の口から漏れる昔話は、日清の思ひ出か、日露の役か？夕食後裏成生徒に囲まれて歓談の一とき。

宿直、ただ聽へるは、傷兵の安らかな寝息と左手のセコンドを刻む時計の音、「異狀なし」と書く日誌の筆先はいつか聽えて來る寝息に合せて呼吸を數へホッと安心する。

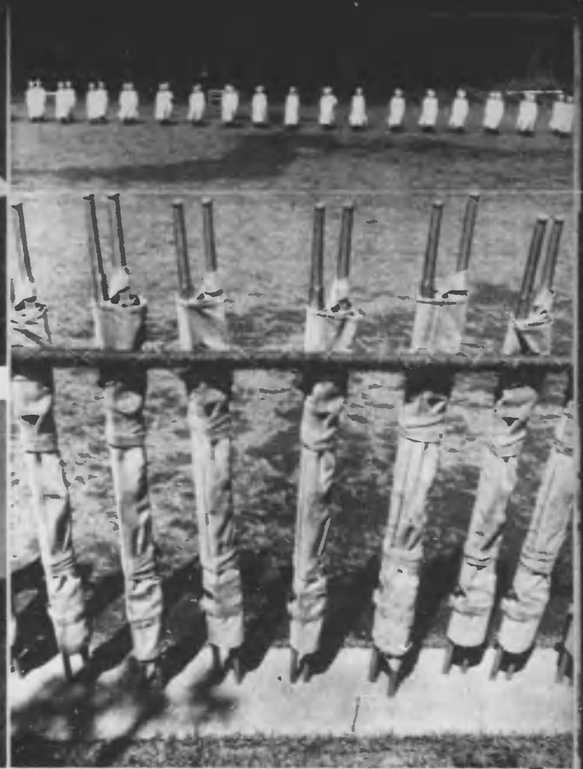
つくれ擔架

火の命令を待つ



右さげ擔架

とのさげに白衣の天使



廠煙彈雨の戰野を驀けめぐる忠者運搬法は養成部一年生の主要學科である

號合一下四人一組とりなと擔伍の編成　擔架をとりつけ運び

持ち場につけ運び

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

手術洗手の用意——
とのふくよかな腕に、おし氣もなくフクシン（赤インキの一種）を塗りこめ、歯茎一つとゞめぬまで洗ひ落しなほ、指先を培養基で試驗してみる。多くの重病者を救ふ聖なる腕は、こうして、きよらかに磨かれてゆく。

きたへる日本精神——
講堂一ぱいに、裂帛の氣合をひゞかして、薙刀體操に全力をうちこむ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

徐州はつひに陥ちた。
日本放送協會はこの曠古未曾有の大會戰の狀況を銃後の耳に傳へやうと、河西アナウンサーを現地に派遣し、凡ゆる技術的困難を克服して見事世界最初の現地放送に成功した。
こゝに五月十九日より一週間にわたる現地放送の速記錄を掲げて皇軍の勞苦と戰績と、生々しい戰場を再び憤裏に描かう。

五月十九日——

故國日本の皆樣、祖國われらが日本の皆樣、われ〳〵のマイクは現在非常なる困難と危險を冒して〇〇戰線に出動中であります。（中略）

徐州城を中心とする附近廣大なる戰場は東西南北到るところ火災を起し、本日午前中より炎々と燃えつゞけ、猛烈なる戰場氣分は到るところに展開されて居ります。殊に徐州の街は西側より南方方面にかけて火勢猛烈を極め、立ち籠る煙は戰場を蔽ひ、この完全なる陥落は九分通り完成したと思はれますが、困難なる市街戰と、今なほ奪回を目さす支那軍の襲撃に、徐州全市は砲聲、銃聲、戰車の響等、彼我入り亂れての戰闘は繼續され、その壯烈さは筆紙に盡し得ず、目を蔽ふものが隨所に展開されて居ります。徐州城々壁各所に樹てられました日章旗は黑煙雨の間に、樹てられ、或は倒れ、逃げつ、隱れつ、悲壯と、勇壯と、萬感と、無念とが入亂れて市街戰をつゞけました。

徐州の街を遠く去る西側、南側の部落々々は敵が五年の日子を費して築きあげた堅陣部落でありますが、今や數時間燃えつゞけ、部落を根城とした敵部隊は或は殲滅され、或は辛ふじて遁れ、一大會戰の緒巻は、死物狂ひの裡に依然として繼續中であります。午後五時頃城壁各所に日章旗翻翻とひろがへるや、遠く徐州城東或は東南方の敵陣地、敵部落よりは旺んに砲撃を加へ、數時間前とは完全に攻守を代へての對陣であります。

徐州の街には住民は全部姿を消し、唯一人の支那人の姿もありません。街中バリケード、鐵條網、妨害物等山と積まれ、わが軍の前進は極めて困難でありますが、北上軍、南下軍の意氣物凄く、困難と悲壯の文字は全く日本語から抹殺されて居り

○○における河西アナウンサー

ます。この轟々たる一大修羅場の中に赤黑い火炎が只今〳〵と立ち登り、戰車の響を加へてこの世の地獄、否、勝利の地獄を完全に展開して居ります。

故國日本の皆樣、祖國日本の各位、徐州城の陥落は成功しました。しかし、徐州會戰の一大殲滅戰はいよ〳〵これからです。敵は徐州城は棄てましたが、徐州の東南方に集結、最後の一騎討ちは愈愈今明日に迫りました。（中略）徐州を中心に隴海沿線で我を邀へた敵の總數は實に八十ケ師、六十萬の大軍であります。この六十萬の敵大軍の大殲滅戰はいよ〳〵こゝ數日中に徐州城陥落以上の大激戰となつて展開されるでせう。凄々たる砂塵の中、人も馬も皆大自然の戰場は流だらけです。唯決死あるのみ！　それよりも、朝飯も、晝飯も、夕飯も恐らくは食はないであらう徐州城攻撃のわが精鋭部隊將士諸君に握飯一つと水一杯を與へたい。

銃後の日本國民の皆樣、今曉から明日拂曉にかけまして徐州會戰の最も壯烈なる肉彈戰と殲滅戰が展開されることをはつきり胸に畳んで下さい。

只今入りました情報によれば、徐州の東、大運河方面の敵は左往右往、目下東南方に向ひ潰走中なり、九里山、覇王山、驚蟄も火災に包まれ、大運河には三つの橋が日本軍によつて架けられ、南下軍は續々橋を渡つて敗走の敵を追撃中なり、敵の飛行機は全く影を見せず、寺内最高指揮官はこの日飛行機にて徐州城上空高く飛び來たり、前線を視察し、通信隊をわが各部隊本部に投下「戰ひは今後にあり、一層の努力を望む」と空より激勵、追撃戰に拍車をかけ、今なほ到る所激戰と肉彈戰は鄭漢に、或は丘の上に、或は部落に、麥畑の中に目を蔽ふばかり展開され、一大修羅場はなほ數日間、夜晝の境もなく續けられて參ります。（中略）

敵の退却せる戰線を視察すれば、徐州を中心とする附近四里四方の敵陣は到る所堅固を極め、蟻塚は網の目の如く廻りめぐらされ、われ〳〵素人には殆んど一歩も前進は出來ません。部落々々はこれ皆一大トーチカとも云ふべき設備を施し、吾吾が部落にとび込むことなど思ひもよりません。丘といふ丘は全部トーチカと化し、（中略）一寸一尺の土地も皆敵の防禦陣地を形成して居ります。危險この上もなく、恐らく世界戰史に曾てない狂陣地であります。（中略）今や敗走したこの陣地内にはなほ手榴彈や地雷等が散亂し、物皆目を蔽ふても餘りあるものゝみであります。

私は今この戰線視察の報告を終るに當りましても、この追撃戰に、世界の何れの國の軍隊もなし得ないであらう勇敢なる日本の軍隊に新たな驚嘆の眉を見張り、全身たゞ感激して頭の下るのみであります。（中略）

徐州陥落！　徐州陥落！　しかし、銃後の皆樣

戰擊のどよめきはまだ早い。勝利の喜びはまだ早い。一大殲滅戰は今後にあります。徐州五十萬の大敵を殲滅するのはこれからです。わが南下、北上軍の包囲陣は縮少されました。この殲滅戰こそ最後の大勝利であることを忘れないで下さい。日本の皆樣、今夜は徹夜で我々日本の大勝利を祈願して下さい。（後略）

五月二十日——

（前略）今晩は關封方面に於て展開されました空中戰闘の狀況を最初に御傳へ申上げます。

昨夜も御知らせ致しました通り、蔣介石直系の第八十七、八十八の兩師、並びに馮東北軍の三十六師の三ケ師は昨夜より今曉にかけましてなほ殘敵を擁して頑強に抵抗するを以てわが〇〇部隊は關封の東方に於て午前七時相對陣しました。

この時突如、西の空より敵の戰闘機、高度約二千五百米より三千米を以て十機來襲、わが地上部隊を爆撃せんとする狀況にありました。わが地上部隊は前面に蔣介石直系の精鋭部隊を控へ、空中

關封へ向け進む兩下車の黃河渡河

よりは敵戰闘機十機の來襲ありと、苦戰を思はれました時、更に突如北方より十二三機の飛行機を認め、いよ〳〵もつて危險と感じ、直ちに空中攻撃の陣勢をとりました。しかし見はそれはわが陸の荒鷲部隊、味方の飛行機であります。高度凡そ三千米、黃河の朝霧拭ふが如く消え去つて行く青一色の大空に、兩軍の飛行機合せて二十三四機は今や將に相見えんとする一瞬であります。

地上部隊は暫し戰闘を止め、この空中戰や如何にと固唾をのんで手に汗を握り、大空高く見つめるのみであります。

敵の編隊は先頭に一機、更につゞいて三機編隊のものが三つ、わが荒鷲部隊は全部三機編隊のものが四つ、敵の飛行機はイー十五型。

一瞬早く敵の飛行機を發見しましたわが飛行部隊は敵の側面に廻つて高度をやゝ高くしました。敵の飛行機はまだわが飛行機のあることを知らぬ模樣であります。たゞ一文字に地上〇〇部隊に向つて進んで來ます。相對峙する地上部隊の協力にはやります。これに乘じてわが戰闘機は完全に敵の背後に廻りました。一瞬わが戰闘部隊長機は攻撃隊勢十分と見るや、攻撃開始の合図に左右の兩翼かブルブルッと顫ひ始めました。それと見る間に第一編隊長の兩翼もブルブルッと左右に搖れ始めました。それつと見る間もなくわが荒鷲部隊は各自敵編隊目かけて背後を襲ひにかゝりました。敵もそれと知るや玆に大空一杯と思はれる程敵味方二十數機が入り亂れての大空中戰が展開されて行きます。彼と我射ち合ふ機關銃の煙が糸を引きます。木の葉落し、或は逆轉、宙返りと息つく暇は勿論ありません。火蓋を切つてから僅か三分、三つの飛行機が火を吹き、黑煙をあげて地上目かけて四逆樣に落ちて行きます。約三千米の高度はいつの間にか約千米に降りてゐます。落されたのは味方か敵か見極める餘裕は全然ありません。飛行機より擧も出して命中しない彈か地上に轟もて參ります。たゞあれよあれよと手に汗を握る中、更に一機又一機、パラシュートかばつとあちこちに開きます。地上にあるものは誰一人として擊をあけるものはありません。猛烈な黑煙と、めら〳〵と燃えあがる赤い炎が目につきます。落ちて行く飛行機をみつめます。更に大空をみつめます。

火から火へ、無敵空軍徐州を爆撃す

やがて大空には舞ひ戻つた二機、或は三機集まり、悠々たる編隊飛行をつゞけてわが〇〇地上部隊の上を旋回しつゝ姿を消して行きました。この間の戰闘は僅かに十五分。わが地上部隊の全員は思はず我を忘れて拍手喝采、萬歲の聲は戰場に轟きました。

かくて、意氣大いに揚つた地上部隊は全戰に敵を破つて關封附近重要據點を占領しましたことは既に皆樣御承知のことゝ存じます。

この陸の荒鷲部隊は實にわが精鋭寺西部隊長の率ひる部隊であることは、あとになつて判りました。一機も漏さず十機全部を撃墜し、われに一機の損害もなし。（中略）この報告を全國の皆樣にお傳へする機會を得ましたことは私の最も喜びとする所であります。全國の皆樣、陸の荒鷲部隊寺西部隊を祝福して下さい。

更に眼を轉じて徐州方面の戰況を申上げます。

徐州城は既に陥落し、皇軍部隊は徐州城に續々入城しました。わが精鋭部隊によつて治安維持に努めて居りますが、要所々々敗走の支那軍に破壞されて、眼を蔽ふものが殘され、その四つ角には殆んど全部バリケードが殘され、その附近に散亂する敵兵の死體も相當の數に上つて居ります。鐵砲、機關銃、鐵兜等は屋内に、街の中に、畑の中に無數に發見される有樣です。燃え上る火炎は未だに諸方面に煙をあげて悲慘なる戰の跡を遺憾なく發揮してゐます。

しかし祖國日本の皆樣、徐州の街は今完全にわが手に落ちましたが、徐州會戰は今なほ猛烈に續行中であります。一大殲滅戰は最後の一兵も殘すまじと、決死の戰ひは今拂曉より十數時間に亘つて今もなほ繼續されてゐます。

徐州の街を棄てた敵の大軍は東へ東へ、或は東南方へと移動してゐます。飛行機上より見れば、既に戰意を失つたであらう敵の大部隊が右往左往する有樣が折柄の快晴に空中より明瞭に見ることが出來ます。わが地上部隊は東西南北より完全なる包囲陣形をとゝの、、全部隊これ又完全なる速撃をとり、密接なる前進作戰をとつてゐる模樣であります。更に東へ進軍しましたわが部隊は全部大運河を渡河して戰線は刻一刻と縮少されつゝあります。

これに應じ、わが空中部隊は凡そ十五分置き毎に次から次へと入れ替り、立ち替り、敵部隊の上空に勇姿を現はし、的確なる爆撃を加へ、敵兵も馬も大砲も猛烈なる砂塵と共に空中高く吹き上げてゐます。前線の各所に人間までも飛散を起してゐる感じであります。（中略）勝利へ、勝利への優越感かつて驗したことのない強い刺戟となつて盛上つて參ります。復讐に驚かされた敵の部隊は一瞬にバラ〳〵ッと蜘蛛の子を散らす如く四方八方にとび去りますが、わが飛行機の姿が消え去るや、忽ち一列縱隊を作り、東へ東へ、或は東南方へと蛇選長蛇の列を作つて進んで行きます。（中略）

本日午前中にはわが包囲陣形は半徑八里でありました。現在恐らく半徑三、四里に縮少され、今晩闇夜に乘じて逃れる敵をおさへれば、明朝あた

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大運河渡河部隊、愛馬も勇躍、主人の手綱に導かれ一斉に河を渡る

りわれ等は完全に敵數十萬の大敵を殲滅するものと思はれます。（中略）

東京よりの電報によりますれば徐州の陥落に際し、旗行列や提灯行列をやめて神社佛閣に皇軍勇士の武運長久を祈らるゝ由をきゝまして前線の將兵諸士は心より感謝し、一層の奮戰を誓つて居ります。このことは特に全國の皆様にお傳へ致します。

本日只今○○戰線は愛馬の惨一つなし。（後略）

五月二十一日——

（前略）徐州を中心とする附近一帶の戰場は本日快晴、續々たる日光を浴びて一大殲滅戰と、敗走の敵に對する追擊戰は今なほ徐州の南方津浦線附近に於て猛烈に行はれてゐます。既に山に部落に想像以上の困難と勞苦を超えて展開されて居ります。殲戰、追擊の場所は刻々と移動してゐます。敵が敗走に際し火を放つた部落も、叢野も、又次々に移動し、火の絶間もなく、徐州は陥落より既に三日目に達するも一大修羅場は依然として各所にくり展げられて居ります。（中略）

全國の皆様、我々放送陣か日夜凡ゆる勞苦と困難なる作業に從事して居りますことは申し上げる迄もありませんが、徐州陥落の報に接しました十九日、我々放送陣の技術員牛塚青年が、勇躍○○戰線を出發、生々しい戰場の道なき道を超え、畑をとび越え、橋なき河を渡河しつゝ一路徐州へ〳〵へと急行、徒歩を以て十數里日夜の別なき强行軍をつゞけ、今日無事徐州に入城、直ちに放送準備に着手せりとの快報に接しました。（中略）

目下の徐州の街には電報とか電線もなく、放送の不便は云ふまでもありませんが、不日徐州より電波をお送りし、皆様に放送しうることを確信致します。（後略）

五月二十二日——

（前略）陥落間もない徐州の街は要所々々破壞された所極めて多く、崩れ落ちた煉瓦の塊が道路上に散亂し、焼け殘る柱、窓硝子の破片等は到る所に充滿するといふ驛東大震災の一部を思はせるものがあります。（中略）

敵亂する支那兵の死體はまだ全部片つけ得ず、或は銃を擲ち、或は徒劍を振りかざしたまゝ、或は眠るが如く、或は折重なつて潰滅の跡をまざ〳〵と思はせる情景を呈して居ります。而も何處から出て來たか、徐州の住民は既に戰線に戻り、我が家へ我が家へと立戻り、（中略）續々と列を作つて懸かばかりの家財、泥にまみれた荷物、警備の日本兵を恐れながらも、しほしほとわが家に急ぐ支那の住民を考へますと、戰ひに敗れた國民の悲惨に暫し涙なきを得ません。

全國の皆様、戰ひに敗れてはなりません。戰爭には如何なる犠牲を拂つても勝たなければなりません。現實にこの悲惨を見まする時、唯勝利あるのみ、勝利は何物をも解決すると今私が現地よりお知らせすることが間違つて居りませうか。私は斷じて間違ひなしと深く信じてお傳へ致します。

尚、現在の徐州の街には食料品は殆んどありません。僅かに概帶致しましたものだけが毎日の食料品となり、その不自由なことは言語に絶し、入城の軍隊は互ひに食料を分け合ひまして、雪飯も夕飯もありません。食糧にありついた時、ありついた場所で食事を摂るといふ有様であります。若しこの徐州の街に全國から皆様の慰問袋が殺到するならばわが兵隊さんはどんなに喜ぶことでありませう。現在の兵隊さんは食糧と水とがこの世に於ける最大の希望であり、最後の喜びであることを遠かに戰線より全國の皆様に御傳へ致します。今からでも決して遅くはありません。徐州戰線へ慰問袋を忘れないで下さい。

占領した徐州の街は今なほ電燈もありません。水道もありません。ガスもありません。全部破壞されて、その恢復には目下の所まるで見當がつきません。從つて夜になるや、徐州の街は黄暗闇の街、靈の街、阿鼻叫喚の街と申し上げても決して過言ではないでせう。（中略）夜は勿論わが軍隊により内地に於ける戒嚴令の如く警戒戰線を極め、午後七時以後はわが軍隊の鐵砲、銃劍それ以外には通行もなく死んだ街の雰圍気を十分に發揮して居ります。たま〳〵黄暗闇の街を衝いて銃擊の響、機關銃の響、無氣味と云ふよりは恐怖、戰慄の夜です。しかし、皇軍の治安維持は刻一刻と死の街を整頓しつゝあることを申上げます。わが徐州における放送陣もやがて無く成立を告げて氣波の偉力を十分に發揮しうることゝ確信致します。（中略）

なほ徐州會戰に際しまして、兩軍の大殲戰は刻刻と日本内地の皆様に報道されて居りますが、大會戰の裏面には、兩國共必死の電波戰、即ちラヂオの戰ひが目覺ましく展開されて居りますことは皆様の想像以上でございます。

支那側は徐州の大敗にも拘らず、今なほ毎晩の如くラヂオ放送をもつて支那人をあざむき、人心の動搖を防ぐことに大苦心であります。即ち徐州會戰に於て支那軍はまだ全く包圍されてはゐない。決戰を避けて遊擊戰法に移るのが目的であると宣傳したり、やがては百萬の大學、專門學校生徒が戰線に向つて進擊し、長期戰不可能なる日本に對して最後の勝利をうるなどと盛んに毎日宣傳放送をやつて居ります。これに對して我々放送陣は徐州の街を北に去る約十二里、例の台兒莊から四里の靈莊に於きまして盛んに活躍し、飽くまで支那側の逆宣傳と、デマニュースの粉砕に滿身の努力を拂つて放送戰線に戰ひつゝあることをお知らせ致します。

私共が居ります○○戰線の上空、天候は晴れ、降るやうな星を戰き、元氣旺盛心氣明朗なり（後略）

五月二十三日——（空中戰戰記略）

五月二十四日——

（前略）戰場は連日灼きつけるやうな暑さのため皇軍將士の活躍は想像以上の勞苦と努力がつゞけられて居ります。殊に水の不足、食料の不足では戰場とは云ひながら實に唯氣の毒に堪えない次第であります。この超人的な勞苦を物ともせず、次から次へと掃蕩戰は依然として續行されつゝあります。（中略）

内地の七時のニュースでも放送ありました通り、徐州の西、蘭封は既に陥落し、蘭封の北を流れる黄河の地點もわが軍の占領するところとなり東に逃げ込みました敵は袋の鼠となり、この蘭封附近に於きましても又復一大殲滅戰が展開されて居ります。この蘭封に於ける敵は寿介石が最も大事にして居りました寿直系軍で、第八十八、第四十六師等より成る七ケ師、重砲、戰車を有する精鋭で、徐州の堅陣と共に寿介石が最も期待する所と傳へられましたが、わが精鋭には徐州の陥落同様瞬時一瞬、死傷約三千を殘して潰滅し、わが皇軍の精華を世界に發揮するものと活気を呈して居ります。（後略）

五月二十五日——

故國日本の皆様、祖國日本の各位、○○戰線よりの放送第七日目を御送り致します。

戰線は相變らずの快晴つゞきで、本日の暑さの如きは日中百度に近く、第一線に活躍する將士の勞苦は思ひ遣るものがあります。今日は内地では既に號外を以て報道されました南北兩最高指揮官の徐州會見の歴史的場面を御傳へ申上げます。（中略）

寺内最高指揮官の飛行機は幕僚を陸へ、午前十時、わが○○部隊奮戰の地、○○飛行場へと低空飛行を開始しました。あゝ、目の前には畑最高指揮官の搭乘する飛行機が同じ所に着陸せんと低空飛行を試みてゐます。「おゝ、同時であつた。」誰彼の別なくに洩れる言葉が歴史的會見の口火を切ります。

やがて畑最高指揮官の飛行機が滑るが如く着陸します。遅れること僅か二分、寺内最高指揮官の飛行機もする〳〵と着陸して二台の飛行機がピタリと頭を並べます。兩飛行機より豪然と幕僚を隨へて兩最高指揮官が降りて參りました。歩み寄る兩將軍の驚喜の顔は一瞬にして喜びに變ります。（中略）幕僚の人々も一瞬に相近つきます。「やあ御出たう」「御苦勞様」の交歓か、歓聲の如く私の耳にひゞきます。眺める私の眼には涙が浮んで來ます（中略）

やがて、兩將軍はじめ幕僚の人々は自動車を連つて飛行場東側に設けられました臨時野戰式場に向ひました。野戰式場は大きなポプラの樹二本を背景としまして、五間に八間位の矩形の地に、白と黄色の幕を三方に張りめぐらし、小型の日章旗が多數掲げられ、その中にテーブルをしつらへテーブルの上にはビールと日本酒の一合瓶、鰹に果物と戰場氣分たつぷりの祝宴であります。寺内大將は中央の左、畑大將は右にと立ち並び、幕僚父次々に居並んでの立食です。この式場を取り圍むものは警備の兵隊さんを除けば、大新聞社、同盟通信社記者とそのカメラマン、それに私たちの十數人に過ぎません。

かくて祝宴に先立ち、寺内最高指揮官の音頭により、遥か東方、東京二重橋の彼方を遥拝、その方向に向ひました上、天皇陛下萬歳の三唱が響高らかに叫ばれ、徐州陥落の歓聲をつゞけて行きます。あゝ何たる感激でありませう。何たる深い感銘でありませう。この強い刺激と深い記憶とは兩將軍にとつても一生忘れ得ない強い印象となつて刻まれて行くことでせう。（中略）

時に十時二十五分であります。かくて祝宴は始まりました。祝宴と云ひましても兩將軍を中央に居並ぶ幕僚十數名の幕を張つた飛行場の祝宴です。しかし何ものにも代へ難い貴い歴史的な祝宴です。不滅の祝宴です。

兩將軍は再び杯を擧げてお目出たうと乾杯し、幕僚また盃をあげてこれに唱和して行きます。寺内最高指揮官も、畑最高指揮官も極めて元氣です。新聞通信社のカメラはぐる〳〵と廻ります。早くも徐州の街にかけ込んで活躍をつゞけてゐます新聞通信社の諸君にも心からの敬意を表します。圓墨になつて、ほろ〳〵のシャツを着て唯一筋報道戰線に活躍するかうした人々の姿こそ本當に偉大なる姿と感じさせられます。（中略）

かくて宴終すれば、午前十一時半、寺内最高指揮官は畑最高指揮官と再び別れの挨拶を交し、寺内將軍が「では御機嫌よう。この上ともどうぞ」と意味深長なる力强い言葉を遺れば、畑將軍も「どうぞお身體を大切に、御機嫌よう」と名殘りを惜しみつゝ兩將軍はこゝに別れをつげ、寺内最高指揮官一同は又飛行機上の人となりやゝ遅れて畑最高指揮官の飛行機もやがて南へと姿を消して行きました。（中略）

次に徐州の街のその後の狀況を申上げます。

度々申上げました通り、徐州の街はわが空陸の襲撃により、物凄く破壞され、全くの廢墟と化し電線は切斷され、煉瓦は道路上に崩れ落ち（中略）まだ使用に堪える家は本當に數へる程しかなく、わが軍隊は破壞された家を應急に修理して住宅としてゐる有様であります。水に不自由するため將兵の勞苦は氣の毒なほどで、毒物を投入された井戸には赤い旗を立てゝ危險の知らせがしてあります。町の中央を流れる黄河は今や兵隊さん達の洗濯場で、行水を使つてゐる等、内地では到底考へられない想像以上の艱行苦行であります（中略）

内地の皆様に申上げたいことは、私が内地で想像して居りましたより余りにも困苦と疲勞とに悩まされつゝある將兵に絶對の感謝を捧げることであり、この點は銃後の皆様に一層の御後援を切望するものであります。戰線にあるものにとりましては銃後國民の聲援こそ何物にも代へ難い最大の味方であることを強く御傳へ申上げます。

徐州は陥落しました（中略）しかし、長期戰はこれからです。軍隊も、銃後の皆様も、軍民協力一致、唯長期戰へ前進あるのみ。（中略）

五月十九日、徐州陥落の當日、○○戰線にマイクを移動致しましたこの戰線放送は本日寺内畑兩最高指揮官の歴史的會見の日を以て一先ず終了いたします。

内地日本の皆様御機嫌よう。左様なら。以上。

寺内・畑兩最高指揮官の歴史的會見

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

送歌 大日本青少年獨逸派遣團

日本と獨逸とを青春で結ぐ青年日本の選士大日本青少年ドイツ派遣團一行三十名は、五月二十五日午後一時わが官民及び在京ドイツ人團体の盛んな見送りの中を東京驛より晴れの壯途にのぼつた。

一行は朝比奈團長太郎氏を團長に幹部四名、大日本聯合青年團協會の代表十四名、大日本少年團聯盟の代表七名、帝國少年團協會の代表四名からなり、いづれも十七歳から二十五歳までの青年で、若人で、農業、學校教員の各五名をはじめ、工業勞働者三名、漁業、商業、酒造見習、木材業、農園具機械業、鐵鋼製造業各一名、殘りの六名が學生徒で、出身府縣も十九府縣にまたがり、學歴も大學卒業者から青年學校在學者になつてゐる。即ち、年齢、學歴、職業から見ても、地域的な方面から見ても、この二十五名は眞に青年日本の代表といふことが出來やう。

交換青少年團として盟邦に使する全團員は、その一擧手一投足にあつぱれ眞に日本の青年代表を示すためまづわが國の文化、藝術、產業、國防等についての理解を深めるとゝもに、ドイツの事情にも通じ、獨逸の一般情勢をも知つておくため、去る五月三日から廿五日の前日まで日本青年館に合宿、講義にドイツ語會話に、見學に、野外訓練に、行事に嚴しい訓練が行はれた。

一方、ドイツからの派遣團はヒットラー・ユーゲント代表三十名も八月中旬來朝、約三ケ月にわたり日本各地を巡歴、わが青少年と交歡する豫定である。獨逸國家の未來を双肩に擔ふ日獨青少年の固き握手が交されるとき兩國數千萬の若人はもとより、防共の聲ひゝも高き盟邦の眞實はますます深められることであらう。

嵐の如き歡送の中を派遣團一行は旗島立つた。

「お父さん、お母さん行つてまゐります」
「日本人の偉さを見せて來るんだぞ」
「今度同そときはもつと偉くなつて來るんですよ」
息子を勵ます父母の言葉はわれら日本人のすべてが派遣團に送る言葉だ。

「それでは」「御機嫌よう」
朝比奈團長と、見送りの在京ヒットラー・ユーゲント代表シュルツェ氏は東京驛ホームに固い握手を交した。

「天皇陛下萬歳！」
出發を前に遙かに宮城を拜し、往く若人、送る若人の聲は東京驛頭を轟かした。

見送りの在京ヒットラー・ユーゲント二十名。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

⇨ こゝに派遣團員の合宿訓練のうちの野營訓練を紹介しやう。一行は東京市外久米川の綠一色の武藏野を野營訓練場に選んだ。

⇨ 初夏の陽は綠の林に燦々と降りそゝぐ。勞働奉仕訓練を終へた若人たちのシャベルの行進。軍事教練で鍛えあげた身だ。獨逸の友達に見せてもはづかしくないだけの訓練振りはもちろんと出來上つてゐる。

野營のうちでも一番樂しいものはキャンプ・ファイアーのひとゝきであらう。

空には降るやうな星のまたゝき地には赤々と燃え上る焚火、その焚火をかこんで、獨逸語會話の練習、獨逸の話、さてはヒットラー・ユーゲントの歌の合唱、若人の高らかな歌聲は武藏野の闇にこだまし、若き血は篝火とともにもえ上り、若き夢は流れる星を追ふて未知の國にはせる。

武藏野のかなたに陽は落ちる。驚の聲も間遠になつた林にコンコンと斧を打つ音があたりの靜寂を破る。

「ヒットラー・ユーゲントに負けないやうにうまく强らうぜ」

「よし來た」

一業しい今春のキャンプを强るにも負けじ嫌ひの日本青少年の氣性が汗ばんだ腕にぐつと力を入れさせる。

ペコ〳〵に空いた腹に、飯盒の飯の何といふ美味さ

一本の蠟燭の灯がほのかに照し出す中にとけ合ふ友情の結しさ。

大地を枕に、若人の夢はいづくにはせる。講義に聽いたベルリンの街か、ニュールンベルクの森か。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

SMILE

的級一第の中藥科眼はルイマス
は用作療治るな適快の共　在存
とるす効奏に速迅に疾眼の種各
刺激の眼　に快明を力視　に共
！るす調強を能機理生るた

薬　價
0.25
0.45
壜店にあり

眼は生活感情の最も
尖鋭なる觸手だ！
流動し交錯し混迷する
現實相は強き眼によって
のみ把握される！
スマイルの眼に榮光あれ

新人の眼科藥

ルイマス

總代理店　株式會社　玉置商店

讀者のカメラ

作品募集

寝ても空、起きても空　大空に夢ぶ

東京市　林　賢二

東京駅を発つてくる風はもうすつかり夏だ、ゴワ〳〵した飛行服を着てゐると汗が一ぱい出てくる、飛行場校舎は羽田飛行場、飛行場校舎は羽田飛行場、心不亂。今は練習機でよた〳〵でも大空への抱負は大きい。

寫眞募集規定

本誌は『寫眞週報』の一助にもと寄へ、出來る限り紙面を開放し諸君のカメラを動員、優秀な技術を持つてゐる。題材は内外發、國情の宣傳に關するものならば何でもよい。例へば街にも田園にも、或は工場、家庭、學校など到る所に漂る銃後の誓ひ、國民精神總動員風景、或は季節と世相の面白い組合せなどはどうでせう。一枚の寫眞でも數枚ひと組の組寫眞でもよく結構。切期日は決定せず、サイズはキャビネ判以上、持參の分には薄謝又は記念品を贈呈し版權は當部に屬するものとす。

應募作品は一切返却せず。

内閣情報部

⇦ 鄙體操

東京市　吉川一雄

土に生れ土に生きる農村の少女等が、一生身の守り心の守りたるは眞白に輝く一鍬の鄙。彼女等は此の鄙を持つて銃後の田畑を耕し、鄙道を耕す。今ぞ先生生の號令のまゝに愛用の鄙、頭上高く掲りかざして鄙體操に、そしむ千葉縣鹿野村の家政女學校生徒、而上にみなぎる眞劍な迫力に、明日の女性日本は托されも。

⇦ 女學校の歩哨さん

千葉縣八日市場町　深田登英雄

非常時局下の緊張した氣持は、先づ服裝と態度から、といふので千葉縣八日市場町敬愛高等女學校では、上級生が校門に歩哨に立つて登校生徒の服裝や態度に惡い所があれば注意しあつて直すやうにしてゐます。非常時を征服して、前進してゆかうといふ國民精神總動員運動は、誰れにでも出來ることです。御五ひに身邊の手輕なことから始めませう。

寫眞週報（業輯報）

昭和十三年六月八日印刷發行

編輯兼發行者　内閣情報部
東京市麹町區永田町
内閣總理大臣官邸内

印刷人　大日本印刷株式會社
東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二番地

印刷所

定價

一部　十錢
一ケ年（前金）四圓八十錢
（外國郵便に依る場合は八圓九十錢）
一ケ年分未滿配送御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい

申込所

寫眞週報配送部
東京市麹町區内幸町二ノ二〇
電話番地西六一五番
振替口座東京三五八〇〇番

全國各地官報販賣所
東都書籍株式會社

最寄書店・驛賣店
各地新聞販賣所

寫眞材料店

今週のキヤメラ

表紙（七と貴と）　土門拳
赤十字のもと輝く白衣　陸軍省報道部・日本赤十字社　土門拳
徐州放送　日本放送協會・同盟特派員　土門拳
大日本青少年團　特派員遺團　丸茂慎一　寫眞
應募作品

正誤

第十五號日華飛機の記事中「等數艦一淺間」とあるは「一等巡洋艦の誤りにつき訂正いたします。

滿鐵週報
昭和十三年二月十一日 郵便物認可 昭和十三年六月八日發行（毎週一回水曜日發行）第十七號

日滿一如

躍進滿洲の實情認識は銃後國民刻下の急務なり

滿鐵鐵道總局

内地・朝鮮より往復・回遊汽車賃

單獨	二割引
團體十人以上	三割引
團體二十人以上	五割引
學生團體	五割引以上

詳細は滿鐵鮮滿案内へ

東京丸ビル
大阪堺筋
下關驛前
奉天北陵
赤峰
吉林
滿洲

（本書の大さは國定規格A4・「週報」倍判）